

九十九里海岸平野中部に於ける地形と土地利用

— 東金市と九十九里町の場合 —

三輪 廣子

はじめに

I. 調査地域概説

§ 1. 調査地域

§ 2. 自然環境概説

§ 3. 人文環境概説

II. 地 形

§ 1. 地形分類の方法

§ 2. 各地形面について

§ 3. 地形に関する考察

III. 土地利用

§ 1. 地形面と土地利用の関係

§ 2. 農業概説

§ 3. 土地利用概説

IV. 最近に於ける農業の変貌

§ 1. 両総用水

§ 2. 園芸作物

§ 3. 機械化、有畜化等について

おわりに

九十九里海岸平野中部の東金市及び九十九里町を卒業論文の調査地域とした。

調査地域は、房総半島の北東部に弧を描いて横たわっている九十九里海岸平野のほぼ中央部にあり、直線距離にして千葉県から20~30km、東京都心から50~60kmの所に位置している。九十九里海岸平野は、東は太平洋に臨む九十九里浜を海岸線とし、西は40~70mの両総台地の海蝕崖によって境されている隆起海岸平野であつて、北は飯岡の行部岬から、南は太東の太東岬まで、北々東〜南々西に鈍い弧を描いて横たわり、その延長は約56kmにもわたっている。巾は所により多少異なるが、7~10kmであり、崖下を10mのcontourが走り、傾斜の極めてゆるやかな低平な土地である。この地域の気候は海洋の影響を受けているため、内陸部に比べ寒暑の差少く、温暖である。土壌は砂質土壌が多く、海岸線に近づくに従い、その割合を増す。一部に泥炭の発達する所もある。台地下に発達する集落は、古代からのものであるが、平野内の集落は近世以降のものである。

この様な地域を、目次に示した様に、初めに自然環境、人文環境について概観し、地形、土地利用及び両者の関係を調べ、最後に、最近のこの地域に於ける農業の変化の様子を分析したが、この調査を通じて得られた結論の主なものをあげることとする。

1) 九十九里海岸平野内では、平野内部はもとより、臨海集落を中心に成り立っている九十九里町に於ても経済の中心は農業にある。

- 2) しかし、片貝に漁港が完成することにより九十九里平野の漁業が、この地域に集中的に発展するものと思われる。又天然ガスの利用、東京への近距離、工場誘致に積極的であることなどを考えると、今後工業もかなり進められると思われ、この地域の産業構造は近い将来に変わってゆくものと思われる。
- 3) 地形的に、きわめて低平であって、平野内に砂堆と堤間低地が海岸線にほぼ平行して交互に走っている。平野内でも調査地域中心とした地域では列状配列が最も顕著である。
- 4) 地形と土地利用とが非常に密接な関係にあり、地形の差異がはっきりと土地利用上にあらわれている。即ち砂堆：畑地、平地林、集落に、堤間低地、谷底平地：水田に利用されている。
- 5) この地域の農家は、田と畑を兼営し、経営方式は、田：水稻一毛作、畑：夏作として落花生、甘藷、冬作として小麦、大麦（夏作、冬作各々の二者の割合は、年により非常に変化が激しい）を栽培し、他に自給用として種々の作物を栽培している。この地域内のほとんどすべての農家が画一的にこの様な経営を行っているが、ここ数年来園芸作物の栽培が行なわれる様になったが、園芸作物を栽培する農家は割合にすぎない。この地域の農業の中心は米作にある。
- 6) 東京に近距離の位置にあること、自然条件にめぐまれていること、両総用水事業の進行、農業技術の進歩等によって農業が近年非常に変化している。農業の変化は、園芸作物の普及、有畜化、機械化、兼業農家の増加、反当収量の増加、離村者の増加（農業労働力の不足）、一農家の耕地の増加などの点に見られる。

那珂川下流南岸の地形と土地利用

— 地方都市隣接地域の農業地理的考察 —

渡辺正江

このテーマと取り組んだ数ヶ月の調査研究の総決算として、又形のない時から卒論という仰々しい名目を頂かざるを得なかった調査の成果としては、自分ながらあわれみを禁じ得ない。しかしからみあつた糸からやつと無器用に一本のつなぎ目だらけの糸を引き出すに似た感慨が、一つの報文を完成した後の、いささか虚脱状態の私のなかに一つの慰めとなって残っている。

生来の消化不良を今更責める気にもならないが、命題の諸検討とか研究方法については早くから、先生方の様々の示唆をいただき、真先にその中に調